
3 教員養成に関する取り組みについて

教員養成及び免許制度を取り巻く環境は大きな転換期を迎えており、教職課程の質的水準の向上を目的とする国の教育政策が順次実施されつつある。本学ではこれに即応すべく、既存業務の枠組みを基に積極的かつ柔軟に対応している。

特に2008年度においては、2009年度の教員免許状更新講習の開設に向けて検討を繰り返し、文部科学省から講習開設の認可を受けるにいたった。

さらに、学校教育や社会に関わる今日的課題に大学全体として組織的に即時対応できる体制を構築し、教職課程を充実・発展させる指導・運営体制を強化すべく、2009年度から新たな組織として「教職センター」を発足させることとなった。

1) 中学・高等学校教員養成に関する取り組み

◆実習者等の状況

介護等体験者は395名（京都234名・瀬田161名）、教育実習生は445名（京都274名・瀬田171名）であった。前年と比較し教育実習生は微増、介護等体験生は減少傾向となったが、教員を目指すという明確な目的、高い意識を持った学生が見受けられた。

◆学校ボランティアへの取り組み

学校ボランティアや学校現場体験については全国的に取り組みがなされている。本学においても京都市教育委員会と協定を交わし実施している「学生ボランティア」学校サポート事業は、教職課程履修説明会等で積極的に勧め、2008年度には38名の学生が多くの学校でボランティアを経験した。

◆教龍会（教壇で活躍する龍谷大学卒業生の会）の開催

卒業生支援の一環として、現職教員で構成する「教龍会（教壇で活躍する龍谷大学卒業生の会）」を隔年で開催している。本会は、教員を目指す在学生との交流の場でもあることから、2008年度も開催し、多数参加があった。

2) 小学校教員養成に関する取り組み

◆教員による個別面談の実施

佛教大学と協定を交わし実施している「小学校教諭免許状取得支援制度」の第1期生として、29名の学生が2008年度より履修を開始した。佛教大学から第1期生の成績状況等の情報が提供され、本学教職課程教室の教員が個別面談を12月に実施し、履修学生のモチベーションアップと不安解消に繋げた。

◆小学校教諭2種免許状の取得支援制度の新設

小学校教諭免許状取得支援制度に2種免許状の取得が可能な2種コースを新たに設置した。2種コースは1種コースと比較し、単位面、経費面で負担減となる。本制度の履修希望者に対する選考の結果、2009年度の2種コース履修予定者は2名となった。

◆小学校教諭免許状取得支援制度説明会の実施

2009年度から履修を開始する1年生を対象に、履修希望者対象の説明会を4月から行うことで周知徹底した。2007年度は、協定先の佛教大学職員による通信教育やスクーリング等の説明は1月に実施していたが、2008年度は前倒しし11月に実施することで、履修希望者の不安解消を図った。

◆情報交流会の開催

小学校教諭免許状取得支援制度は通信教育による履修形態であるため、本学の履修者同士の情報交換を目的とした第1期生及び2009年度から履修を始める第2期生の合同の情報交流会を3月下旬に実施した。

3) 連合教職大学院に関する取り組み

◆広報体制の徹底

本学が連合参加している「京都教育大学大学院連合教職実践研究科（連合教職大学院）」には、連合参加大学の特別推薦枠が設けられており、卒業後3年までの卒業生及び4年生が推薦対象となることから、教員免許取得者（卒業生）及び教育実習生（4年生）にDMを送付する等、本大学院の取り組みを含め広く広報を行った。

◆連合教職大学院入学希望者対象説明会の充実

本大学院への入学希望者を対象に、本学での説明会を7月に開催した。説明会では、本大学院の教員及び本学卒業生で現在大学院在学中の学生を招き、実情や体験を話してもらうことで、情報提供に努めた。